

## アルバータ研修について

工学部 材料・応用化学科 2年 國安里菜

今回、アルバータ研修に参加して本当にたくさんの有意義な経験をした。研修に行くことにしたのは、高校生の頃から「留学」に憧れていたからという理由と、大学生になり、周囲に留学生の友達もできやすい環境になったことにより、英語力の大切さも実感したことからだ。英語圏に一か月間、それも初めての海外ということで、行く前は英語力の面でも、日本とは違う文化や生活面などでも不安が多少あった。しかし、渡航の前に研修等があったことにより、渡航の際の注意点や現地でのどのように生活していけばよいかなどのイメージが分かったので不安も軽減することができたと思う。

現地についてすぐは、引率者が常に近くにいたため安心して現地での生活をスタートすることができたと感じる。しかし、渡航初日に荷物が空港に置き去りになって手元に届かなかったことや、寮での食料調達に困ったこと、時差ぼけなど渡航後すぐは本当に疲労をよく感じた。その後はすぐに生活に慣れ、日本とのギャップを感じるのが日常茶飯事だったが、個人的には目に映るものが真新しくこれからの生活にワクワクすることが多かった。放課後、学生たちだけでエドモントン市内の観光スポットやショッピングモールなどにたくさん足を運んだことも本当にいい思い出になった。また、寮生活が終わり、ホームステイが始まると、ホームステイ先の家族と放課後に遊びに行ったり、休日に協会に出かけたり、英語を話す機会もたくさん増えた。ホストファミリーと毎日夕食を取ることで、ホストファミリーの友人に会ったこと、ホームステイ先から学校に通学する際に公共交通機関を利用したことなど、現地の人と同じ体験をできたことがとても有意義だった。

アルバータ大学の English Language School では平日の朝八時半から十二時半まで講義が行われた。ネイティブの講師が最初から最後まで英語で教える講義は、熊本大学で受講した multidisciplinary study 以来であった。初回の講義では、講師が話す英語に理解が追いつけなかったり、言いたいことがなかなか言えなかったり、自分自身の英語力にあまり満足できなかったし、英語力の低さを痛感した。自分の今の実力をさらに伸ばすために、講義後に出される課題を、毎日時間をかけ取り組んだ。また、個人的にエドモントンについての日から毎日日記をつけることを決めていたので、欠かさず書いていた。その日記には、その日あったことをたとえ間違った英語を使っていたとしても、好きなように、使いたい表現を調べながら、書くようにした。これらの心がけのおかげで、自分から英語を話すことに躊躇しなくなったり、ある程度発音が良くなったりなどの効果も実感できた。そして、講義が進むにつれて、講師が言っていることの大半を理解することができるようになった。講義がすべて終わった後は達成感に満ち溢れていた。アルバータ大学が提供してくださったアクティビティはどれも充実していた。私が一番楽しんだのは、ロッキーツアーである。カナダの広大な自然にこの身をもって触れることができ、終始感動していたことを覚えている。有名な Lake Louise では、カヌー体験をした。カヌーに乗って池の

真ん中まで行った時の絶景が今でも忘れられない。そのほかにもたくさんの美しい景色を見ることができて本当に幸せだった。またバンフのダウンタウンではたくさんのお土産を見たり、食べ物を食べたり自由時間も充実していた。ロッキーツアーはとても満足いく内容だったと思う。これから、渡航する熊大生にもぜひ経験してほしい。

カナダに来て、とても素敵な人たちと出会うことができたし、日本の生活とは違うけれど、受け入れることもできた。日本には日本人がもちろん多いけれど、カナダは多文化社会で道を歩く人、電車に乗っている人の中にはたくさんの人種がいるということも実感した。たくさんの移民がいるが、人種の境界を超えて生活できるカナダの文化がとても素敵だな、と感じた。カナダに来る前よりもずっと、カナダが好きになった。

これだけ長い期間英語漬けの日々は初めてだったが、一度も苦痛に感じることはなく、第一言語以外でコミュニケーションを取れるということがとても嬉しかった。日本に戻ってから、留学生の友達ができ、私の今の英語力をもっと伸ばすために、また、留学生の日本語力を伸ばすために、お互いに目標をもちながら交流している。そしてこの留学経験や、国際交流を続ける中でできた今からの目標が、もう一度大学生のうちに留学に行くことだ。次は一年間行きたい。大学間の協定校に留学しようと考えている。そのためには、IELTS のスコアが必要で、今よりももっと英語力を伸ばさなければならないので、努力を続けていくつもりだ。次の留学では、英語力を伸ばすことも目的の一つだが、ものづくりや、デザインなどの、専攻している学科とは少し違うことも学ぶことも目的としている。晴れて、再び留学することができるようになったら、将来世界のどこででも働けるような人材になれるように現地でたくさんの経験を積みたいと考えている。